

令和5年度

「運営に関する計画」

最終評価



大阪市立築港中学校

令和6年1月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

生徒一人一人が自らが考え、判断して行動できる「自立力」と基本的な生活習慣を確立し、規律ある学校生活が過ごせる「自律力」を身につけさせる教育実践を推進している。

本校では、「分かる喜び、できる楽しさを実感できる授業」をめざし、ICT機器の効果的な活用を図るとともに、授業改善に取り組んでいる。「みんなの学習クラブ」を活用し、一斉画一的な授業から脱却し、生徒が自学自習できる力の育成を進めている。わずかずつではあるが着実に学力が向上してきている。

教員は一人一人の生徒の意見を徹底して認めるようにしている。それによって人の話を真摯に聞く力も高まってきている。授業のなかでプレゼンテーションの機会も設けて、表現のスキルを高めたり、プレゼンテーションの力を育てる工夫もしている。また、生徒一人一人が自分の考えをまとめ、発表する機会がふえることによって、言語活動の充実や表現能力の育成を図っている。

令和4年度に実施した各学力検査等の結果を掲載する。

### 1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	理科	国語	数学	理科
3年	学校	18	61	35	37	3.6	2.0	2.4
	大阪市	—	66	50	46	5.5	12.2	4.4
4月19日	全国	—	69.0	51.4	49.3	4.3	10.8	3.4

### 2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	16	43.9	44.3	45.6	43.7	43.8	10.7	4.3	8.9	4.2	3.9
	大阪市	—	53.4	54.7	54.9	56.8	53.7	11.9	4.3	9.4	5.3	6.8
9月6日	大阪府	—	53.8	55.4	56.0	56.7	54.2	12.1	4.6	9.6	5.8	7.1
2年	学校	18	66.9	51.0	57.7	61.1	60.2	6.3	5.3	14.4	5.2	6.9
	大阪市	—	58.7	44.6	48.1	53.6	55.2	8.6	5.9	15.8	8.3	6.4
1月11日	大阪府	—	59.6	44.4	49.0	53.1	56.1	8.5	6.3	16.1	8.7	6.5
1年	学校	10	58.8	52.9	51.2	53.2	62.9	4.7	1.1	4.4	0.5	3.8
	大阪市	—	57.8	51.8	54.2	55.0	58.3	12.1	4.9	7.6	5.3	5.1
1月11日	大阪府	—	58.6		55.0		59.1	12.5		8.0		5.3

- ※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施
- ※
- ※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択
- ※ 3年生の理科はC問題を選択

### 3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	16	99.3	99.0	142.3	93.1
10月17日	大阪市	—	102.8	105.4	152.4	96.6

### 4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	20	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	30.33	18.42	44.92	50.42		71.33	8.16	181.42	15.58	35.00
	大阪市	28.88	26.10	42.66	51.66	425.87	77.74	8.08	196.13	19.98	40.80
	全国	28.99	25.74	43.87	51.05	409.81	78.07	8.06	196.89	20.28	41.04
2年 女子	学校	21.00	23.63	47.50	51.88		52.75	8.59	165.38	14.25	50.75
	大阪市	23.08	21.91	45.40	46.34	321.08	51.72	9.07	166.28	12.26	47.00
	全国	23.21	21.67	46.07	45.81	302.89	51.60	8.96	167.04	12.45	47.42

本校では、基礎的・基本的な内容の確実な定着と「分かる喜び、できる楽しみを実感できる授業」をめざした、授業の工夫・改善に取り組みを進めている。具体的には生徒一人一人の理解度に対応した授業やICT機器を活用した授業方法などの授業研究にも積極的に取り組んでいる。

これからの教育が課題研究やグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど、生徒の能動的な学習を取り込んだ授業を推進することで、自ら課題を見つけ、それを解決する能動的な学びに向かうことで、自立的な学習態度を身につける「生きる力」を育む教育へと取り組みを展開する。

また、本校の生徒の特徴としては授業や各行事、部活動等の活動の場面において、見本や例を求め、型どおりにこなすことが最優先となっており、自分で何かを生み出す力や自らの考えを表現する力、学びをつなげていく習慣が身につけていない。

そこで、「授業デザインを探究」し、「思考の可視化」を図り、「学びの協働」を推進するという3つの視点を通じて、「教科の学び」(内容)と「学び方の学び」(方法)をもたらす2層構造型の授業実践を行う。まなボードや実物投影機は、「課題⇒予測⇒まとめ⇒振り返り」のサイクルをもった授業実践を推進し、教員も生徒も考えを伝えるための手軽なツールとして利用することができ、小グループや学級の協働を促進し活性化することができる。実践を通じて、「自ら学び、自ら鍛え、みんなと生きる生徒」の育成をめざす。

#### 中期目標

##### (1)【安全・安心な教育の推進】

- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、全国学力・学習状況調査や校内調査等において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を82%以上にする。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、全国学力・学習状況調査や校内調査等において、「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年95%以上にする。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、全国学力・学習状況調査等において、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、校内調査における「学校では生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多いですか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を毎年70%以上にする。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、全国学力・学習状況調査等において、「自分には、よいところがありますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を77%以上にする。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、校内調査における「本を読む機会が増えた」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より向上させる。

## 中期目標

### (2)【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、全国学力・学習状況調査において、平均正答率の対全国比を1.00以上にする。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を56%以上にする。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、体力合計点の対全国比を1.01以上にする。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、校内アンケートで「授業が分かりやすく楽しい」と答える生徒の割合を55%以上にする。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、校内アンケートで「先生はICT機器などを使って、授業内容や方法を工夫している」と答える生徒の割合を90%以上にする。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、校内アンケートで「授業でわからないところについて、先生に質問している」と答える生徒の割合を60%以上にする。

### (3)【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、授業日において学習者用端末を毎日使用する。(ただし、学校行事等ICT活用が適さない日を除く。)
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、デジタル教材を活用した朝学習を、週1回実施する。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を、基準1では50%以上、基準2では75%以上にする。
- ・令和4年度～令和7年度末にかけて、ゆとりの日を週に1回設定・実施する。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### (1)【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ①年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を91%以上にする。
- ②年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ③年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
  - ※ 前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握
  - ※ 改善とは、次の状態の場合をいう。  
(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)
    - 1 出席日数の増（学校内外でICT等を活用した学習活動を行うことによる出席認定含む）
    - 2 ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
    - 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

#### 学校の年度目標

- ①年度末の校内調査において「学校へ行くのが楽しい」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ②年度末の校内調査において「時間を守り、遅刻をしない」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。
- ③年度末の校内調査において「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。
- ④年度末の校内調査において「友だちの気持ちを考え、友だちを大切にしている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- ⑤年度末の校内調査において、「規則正しい生活を心がけている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ⑥年度末の校内調査において、「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ⑦年度末の校内調査において「先生はいじめや校内暴力などのない学校づくりに取り組んでいる」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を85%以上にする。
- ⑧年度末の校内調査において「子どもは友だちを大切にし、人への思いやりを持っている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を90%以上にする。

## (2)【未来を切り拓く学力・体力の向上】

### 全市共通目標（小・中学校）

- ①年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を36%以上にする。
- ②中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- ③大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を前年度より5ポイント向上させる。
- ④年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。

### 学校園の年度目標

- ①年度末の校内調査において、「授業が分かりやすく楽しい」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ②年度末の校内調査において、「先生は授業内容・方法を工夫している」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- ③年度末の校内調査において、「授業でわからないところについて先生に質問しやすい」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ④年度末の校内調査において、「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。
- ⑤年度末の校内調査において、「図書室や学級図書を利用している」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。
- ⑥年度末の校内調査において、「自分の頑張ったところを認めてくれる先生が多い」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。

## (3)【学びを支える教育環境の充実】

### 全市共通目標（小・中学校）

- ①デジタル教材を活用した朝学習を週1回実施する。
- ②ゆとりの日を週に1回設定・実施する。

### 学校園の年度目標

- ①授業日において学習者用端末を毎日使用する。（ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日を除く。）
- ②教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を、基準1では50%以上、基準2では75%以上にする。

#### **(4)【その他】**

- ①年度末の校内調査において、「あいさつをしている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- ②年度末の校内調査において、「清掃活動に取り組んでいる」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- ③年度末の校内調査において、「急な事件や事故、自然災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。
- ④年度末の校内調査において、「学校のホームページをよく見る」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を50%以上にする。
- ⑤年度末の校内調査において、「朝食を毎日食べていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。
- ⑥年度末の校内調査において、「手洗い・手指消毒をしっかりと、健康に気をつけている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### **(1)【安全・安心な教育の推進】**

おおむね、目標は達成できた。

不登校生の対応について、家庭訪問・別室登校・オンライン授業を継続するとともに、不登校生の登校状況改善のため、関係諸機関とも連携して生徒本人の改善を促す。

#### **(2)【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

おおむね、目標は達成できた。

大阪市英語力調査で、大きな成果を上げることができたが、本校の特色である少人数授業をさらに充実させ、継続的取り組みを推進し、引き続き、全体的な学力向上を目指す。

#### **(3)【学びを支える教育環境の充実】**

おおむね、目標は達成できた。

引き続き、郷土を愛する心の育成に努めていく。

## 大阪市立築港中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況																				
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>全市共通目標(中学校)</b></p> <p>①年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を91%以上にする。</p> <p>②年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>③年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目 標</th> <th>結 果</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合</td> <td>91% 第一学年</td> <td>76.5</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>第二学年</td> <td>60.0</td> </tr> <tr> <td>第三学年</td> <td>88.2</td> </tr> <tr> <td>不登校生徒の在籍比率</td> <td>前年度より減少</td> <td>減少</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>前年度不登校生徒の改善の割合</td> <td>増加</td> <td>増加</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【生活指導部】</b></p> <p>達成状況 A      ②      C</p> <p>いじめ事案に対しては、必ずいじめ対策委員会を開き、教職員全体で対応してきた。不登校生については、2年前から不登校の生徒については登校日数とオンラインでの参加時数を増やしたり、SSW と連携して改善に取り組んでいる。</p> <p>次年度に向けての取り組み</p> <p>いじめについては SNS を介しての事案もあるので、SNS の使い方についての指導も強化していくことでいじめ事案を減らしていきたい。</p> <p>不登校生については引き続き、その生徒に応じた対応を丁寧に行っていく。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>①年度末の校内調査において「学校へ行くのが楽しい」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>②年度末の校内調査において「時間を守り、遅刻をしない」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>③年度末の校内調査において「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>④年度末の校内調査において「友だちの気持ちを考え、友だちを大切にしている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。</p> <p>⑤年度末の校内調査において、「規則正しい生活を心がけている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。</p>		目 標	結 果	達成状況	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合	91% 第一学年	76.5	B	第二学年	60.0	第三学年	88.2	不登校生徒の在籍比率	前年度より減少	減少	A	前年度不登校生徒の改善の割合	増加	増加	A	
	目 標	結 果	達成状況																		
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合	91% 第一学年	76.5	B																		
	第二学年	60.0																			
	第三学年	88.2																			
不登校生徒の在籍比率	前年度より減少	減少	A																		
前年度不登校生徒の改善の割合	増加	増加	A																		

- ⑥年度末の校内調査において、「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ⑦年度末の校内調査において「先生はいじめや校内暴力などのない学校づくりに取り組んでいる」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を85%以上にする。
- ⑧年度末の校内調査において「子どもは友だちを大切にし、人への思いやりを持っている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を90%以上にする。

	目標	7月	12月	達成状況
「学校へ行くのが楽しい」に肯定的に回答する生徒の割合	80%	95.9	97.7	A
「時間を守り、遅刻をしない」に肯定的に回答する生徒の割合	85%	91.9	95.4	A
「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」に肯定的に回答する生徒の割合	85%	95.9	88.6	A
「友だちの気持ちを考え、友だちを大切にしている」に肯定的に回答する生徒の割合	90%	100	100	A
「規則正しい生活を心がけている」に肯定的に回答する生徒の割合	80%	89.8	90.9	A
「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」に肯定的に回答する生徒の割合	80%	93.8	93.2	A
「先生はいじめや校内暴力などのない学校づくりに取り組んでいる」に肯定的に回答する保護者の割合	85%	94.3	95.7	A
「子どもは友だちを大切にし、人への思いやりを持っている」に肯定的に回答する保護者の割合	90%	90.5	97.8	A

【生活指導部】

達成状況

Ⓐ B C

日々、校内巡視に努め、いじめや暴力行為などへの注意喚起をしている。

朝は登校指導で、登校時間を守ることへの意識付けを行っている。

次年度に向けての取り組み

引き続き、校内巡視・登校指導をおこなっていく。

【人権教育委員会】

達成状況

Ⓐ B C

「友だちの気持ちを考え、友だちを大切にしている」に肯定的に回答する生徒の割合が100%、また「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」に肯定的に回答する生徒の割合も高く人権意識を高めていった。各学年の総合の時間や平和登校日において、平和学習に取り組んだ。

次年度に向けての取り組み

平和学習の取り組みを引き続き進め、人権に対する意識を高めていく。

<p>【健康教育部】</p> <p>達成状況 (A) B C</p> <p>保健委員会の取り組みや、保健だよりを通じて、睡眠や食事の大切さを伝えてきた結果、9割近い生徒が、規則正しい生活を心がけるようになった。</p> <p>次年度に向けての取り組み</p> <p>さらに、スマホ等の使い過ぎによる、視力の低下に対する取り組みや、むし歯予防の意識を高める取り組みもおこなっていく。</p>	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	<p>進捗状況</p>
<p><b>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>相談活動を充実させ、生徒の変化等に気づき未然防止に努める。いじめや暴力行為のない学校づくりをめざす。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間2回以上カウンセリング活動を実施する。また、毎週金曜日に「一週間の振り返り」を実施し、いじめや不登校等の未然防止、早期発見・早期指導に努める。</li> <li>・様々なアンケート調査を実施し、生徒理解に努める。</li> </ul> <p>【生活指導部】</p> <p>達成状況 A (B) C</p> <p>『心の天気』機能を使ってほぼ毎日、朝学活・終学活時に生徒の心の状態についてのアンケートを行い、気持ちの変化をとらえるようにしてきた。また、年2回の教育相談やスクールカウンセラーの講話などを実施し、生徒の実態把握に努めている。</p> <p>次年度に向けての取り組み</p> <p>今年度同様アンケートを定期的実施し、いじめの未然防止に努める。また、いじめが発生したときは速やかに『いじめ対策委員会』を開き、対応策を協議する。</p>	<p>B</p>
<p><b>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>時間を守る習慣を身につけさせる。予鈴までに登校させ、遅刻者数を前年度より減少させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の校内調査において「時間を守り、遅刻をしない」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。</li> </ul> <p>【生活指導部】</p> <p>達成状況 (A) B C</p> <p>生徒アンケートにおいて、「時間を守り、遅刻をしない」に肯定的に回答する生徒の割合が95.4%と目標以上を達成した。</p> <p>次年度に向けての取り組み</p> <p>今年度以上の結果が残せるように、登校指導等において声掛けをしていく。</p>	<p>A</p>

**取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】**

心の葛藤を通して、より良い生き方を求める態度を養う。

指標

- ・「道徳」の授業力向上をめざし、大阪市立中学校教育研究会の道徳部から出ている「道徳の授業をするにあたって」の資料を周知し、実践する。

【 1年 】

達成状況 A B C

学年の教員でローテーションを組み、計画的に授業を行うことができた。

次年度に向けての取り組み

今後も継続してローテーションで授業を実施していくとともに、指導の内容を授業参観で共有しながら、道徳の授業の質の向上を図る。

【 2年 】

達成状況 (A) B C

学年の教員でローテーションを組み、計画的に授業を行うことができた。

次年度に向けての取り組み

今後も継続してローテーションで授業を実施していくとともに、指導の内容を授業参観で共有しながら、道徳の授業の質の向上を図る。

【 3年 】

達成状況 (A) B C

学年の教員でローテーションを組み、計画的に授業を行うことができた。

次年度に向けての取り組み

今後も継続してローテーションで授業を実施していくとともに、指導の内容を授業参観で共有しながら、道徳の授業の質の向上を図る。

**取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】**

アイマスクや車いす体験などの疑似的な体験を通して、障がいや障がいのある人を正しく理解し必要な配慮を考え、誰もがお互いに人格と個性を尊重し、共に支え合う「共生社会」を実現する資質を育成する。

指標

- ・年度末の校内調査において「友だちの気持ちを考え、友だちを大切にしているの項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査において「子どもは友だちを大切にし、人への思いやりを持っている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を90%以上にする。

【共生教育委員会・特別支援教育委員会】

達成状況 (A) B C

日々の学校生活や行事、学年での取り組み及び各教科・領域において、友だちの気

A

持ちを考えたり大切にすることの大切さを学習している。年度末の行内調査において、生徒アンケートでは 100%、保護者アンケートでも 97.8%という成果を出し指標を達成することができた。

次年度に向けての取り組み

今年度同様に、生徒アンケートや保護者アンケート項目の「友だちの気持ちを考え、友だちを大切にしている」を90%以上にできるようにしていきたい。そのために、福祉体験だけではなく、日々の学校生活や行事，学年での取り組み及び各教科・領域での横断的な指導を継続していきたい。

#### 【 1年 】

達成状況

① B C

車いす体験と車いすバスケット体験を実施し、車いす生活の目線や困難さなどを考え、相手を思いやり尊重することの大切さを学んでいる。道徳や各教科の授業・学活や総合などで人権や共生について学んでいる。

次年度に向けての取り組み

認知症への正しい知識や理解についての学習や障がい者理解に関する映画を見て理解を深めたい。また福祉体験だけではなく、日々の学校生活や行事，学年での取り組み及び各教科・領域での横断的な指導を継続していきたい。

#### 【 2年 】

達成状況

① B C

認知症講話を実施し、日々の生活の中で少しでも自分ができることを考えて実行に移していくこと大切さ、相手を思いやり協調や尊重すること大切さを学ぶことができた。2月にはアイマスク体験を実施する予定である。また、道徳や各教科の授業・学活や総合などで人権や共生について学んでいる。

次年度に向けての取り組み

障がい者理解に関する映画を鑑賞させて理解を深めたり、車いす体験を実施していきたい。また福祉体験だけではなく、日々の学校生活や行事，学年での取り組み及び各教科・領域での横断的な指導を継続していきたい。

#### 【 3年 】

達成状況

① B C

道徳や各教科の授業・学活や総合などで人権や共生について学んでいる。また、修学旅行や体育大会、文化祭などの行事を通して他者と協調しながら相手のことを考えることができた。

次年度に向けての取り組み

福祉に関する体験や授業を個別に設定することができなかつたので次年度は早い段階で計画を立てて取り組みができるように進めていきたい。また福祉体験だけではなく、日々の学校生活や行事，学年での取り組み及び各教科・領域での横断的な指導を継続していきたい。

**取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】**

職業講話等の体験学習を通して、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。

指標

- ・様々な体験した事の発表を聞くことによって、疑似的な体験を積み重ね、勤労観・職業観を育成する。(1年 職業講話、2年 高校出前授業、3年 体験入学、など。)

【 キャリア教育委員会 】

達成状況 (A) B C

昨年度より充実した取り組みができた。 外部講師を招き幅広くキャリアを学ぶことができた。

次年度に向けての取り組み

海遊館、エイジレスセンター、地域と連携しながら社会に役立てる人材の育成を行う。

【 1年 】

達成状況 A (B) C

11月に校外学習(海遊館のバックヤード)で職業について学ぶことができた。

次年度に向けての取り組み

6月の職場体験に向けて、3学期に取り組みをしていく予定である。

【 2年 】

達成状況 (A) B C

11月の職場体験に向けての事前学習から体験本番までを通して、職業観や働くことについて深く学ぶことができた。

次年度に向けての取り組み

一人ひとりの卒業後の進路選択が円滑に進められるように、取り組みや情報提供を行っていきたい。

【 3年 】

達成状況 (A) B C

7月に高校出前授業を実施し、進路に向けて深く考えるきっかけにすることができた。進路懇談や総合の時間を通して、生徒それぞれに合った進路選択を模索してきた。

次年度に向けての取り組み

卒業後も、それぞれの進路先での生活を見守ってあげたい。

**取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】**

性教育を学ぶことによって、互いに異性についての正しい理解を深めるとは、互いに相手のよさを認め合い、互いに独立した一人の人格としてその尊厳を重んじ、人間としての成長と幸せを願う態度を育てる。

指標

- ・年度末の校内調査において、「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、「性の学習（性教育）について学ぶ機会がある」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。

【共生教育委員会】

達成状況

Ⓐ B C

「性の学習（性教育）について学ぶ機会がある」の項目において、「よくあてはまる」「だいたい当てはまる」の回答は97.7%であり目標を達成している。

次年度に向けての取り組み

各学年の実情にあわせて、3年かけて学べるような内容を精査し、実施していく。また、外部講師なども利用することも考えていきたい。

【 1年 】

達成状況

Ⓐ B C

9月に「折れない心を育てる命の授業」を実施した。

12月に性教育「生命の神秘・妊婦体験」を実施した。

次年度に向けての取り組み

日々の学校生活の中でも、人権について語りかけ学ばせていく。

【 2年 】

達成状況

Ⓐ B C

2月に「デートDV」を外部講師により実施。

次年度に向けての取り組み

1年は「生命の誕生」2年は「デートDV」を実施してきたため、来年度は「性感染症や妊娠」について、義務教育期間の間のできる内容を実施していきたい。

【 3年 】

達成状況

Ⓐ B C

11月に「妊娠・出産や性感染症」を実施した。

次年度に向けての取り組み

中学校卒業後も自分の人生において大事な性について考えた行動ができるようなかわりをしていく。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

おおむね、目標は達成できた。不登校生に対しては、家庭訪問・別室登校・オンライン授業などの対応をしている。特に、ほとんど休みがちであった生徒が、区役所の不登校生徒支援事業のおかげで、改善され、一週間に何回か、別室登校ができるようになった事例がある。

次年度への改善点

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合が学年により差ができたが、その結果を受けて、以前にも増して、休憩時間等も生徒に寄り添い、いじめの未然防止に努めている。次年度では、さらに多くの生徒が最も肯定的な「思う」と回答するように指導していく。また、一人一台端末の「心の天気」機能をさらに活用し生徒の心の状態をチェックしていくとともに、いじめや不登校等の未然防止、早期発見・早期指導に努める。

## 大阪市立築港中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況												
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標(中学校)</b></p> <p>①年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を36%以上にする。</p> <p>②中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。</p> <p>③大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を前年度より5ポイント向上させる。</p> <p>④年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。</p>													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>結果</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合</td> <td>36.0</td> <td>50.0</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table>		目標	結果	達成状況	「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合	36.0	50.0	A				
	目標	結果	達成状況										
「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合	36.0	50.0	A										
<p><b>【3年生 中学校チャレンジテスト(大阪府):対府比】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年時(R3)</th> <th>2年時(R4)</th> <th>3年時(R5)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td>1.05</td> <td>1.12</td> <td>1.15</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>0.98</td> <td>1.18</td> <td>0.99</td> </tr> </tbody> </table> <p>(対府比)=(学校の平均点)÷(大阪府の平均点)</p>		1年時(R3)	2年時(R4)	3年時(R5)	国語	1.05	1.12	1.15	数学	0.98	1.18	0.99	
	1年時(R3)	2年時(R4)	3年時(R5)										
国語	1.05	1.12	1.15										
数学	0.98	1.18	0.99										
<p><b>【2年生 中学校チャレンジテスト(大阪府):対府比】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年時(R4)</th> <th>2年時(R5)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td>1.00</td> <td></td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>0.93</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(対府比)=(学校の平均点)÷(大阪府の平均点)</p>		1年時(R4)	2年時(R5)	国語	1.00		数学	0.93					
	1年時(R4)	2年時(R5)											
国語	1.00												
数学	0.93												
<p><b>【1年生 中学校チャレンジテスト(大阪府):対府比】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年時(R5)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td></td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(対府比)=(学校の平均点)÷(大阪府の平均点)</p>		1年時(R5)	国語		数学								
	1年時(R5)												
国語													
数学													

	目標	結果	達成状況
大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合	36.3%	81.3%	A
「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合	50%	83.3%	A

#### 【国語科】

達成状況

A      ②      C

3年生のチャレンジテストにおいては、府平均を上回ることができた。

次年度に向けての取り組み

1、2年生も続けるように、日々の授業の中で思考力、判断力、表現力を刺激できるように、さまざまな教材や教具を用いて授業展開をしていきたい。

#### 【社会科】

達成状況

①      B      C

3年生のチャレンジテストにおいては、府平均を上回ることができた。

次年度に向けての取り組み

引き続き日々の授業のなかで、考える力を養い、興味を満ちながら学習できるようにICT機器を駆使しながら、生徒との会話を重視して授業をするよう心掛けている。

#### 【数学科】

達成状況

A      ②      C

3年生のチャレンジテストにおいて府平均よりもわずかに下回ったこともあり、毎週1時間、入試に向けて習熟度別入試対策を実施した。

1・2年生はチャレンジテスト対策をしっかりとしたので、結果が楽しみである。

次年度に向けての取り組み

変わらず、日々の授業をしっかりと取り組んでいく。

#### 【理科】

達成状況

A      ②      C

3年生のチャレンジテストでは、府平均をわずかに上回ることができた。

次年度に向けての取り組み

さまざまな実験や観察、グループワークを通して思考力や判断力を育成していく。また、「生命」領域と「地球」領域を苦手とする生徒が多いため、ICT等を活用して生徒の関心を高め、定着させる。

【英語科】

達成状況 A ② C

3年生のチャレンジテストにおいては、府平均を上回ることができた。

次年度に向けての取り組み

「聞くこと」の力をつけるための授業を工夫していきたい。

【 1年 】

達成状況 A ② C

各教科でチャレンジテスト対策をしていただいたので、結果が楽しみである。

次年度に向けての取り組み

チャレンジテストの結果を分析し、対策を講じていきたい。

【 2年 】

達成状況 A ② C

各教科で授業や冬休みの課題を通してチャレンジテスト対策を行った。

次年度に向けての取り組み

チャレンジテストの結果を分析し、対策を講じたい。

【 3年 】

達成状況 A ② C

数学が苦手な生徒が多いので、冬季休業中に数学の補習を実施して、過半数以上の生徒が参加した。5教科の平均点は府平均よりも高かった。

次年度に向けての取り組み

高校進学後も学力向上を目指していくことを促す。

【保健体育科】

達成状況 ① B C

体育授業では、年間を通して球技・器械体操・水泳・武道・ダンス・陸上競技を実施した。多くの種目を実施したことが体を動かす経験につながったと考えられる。

次年度に向けての取り組み

全校生徒の体力の指標に適した種目を実施していく

学校の年度目標

- ①年度末の校内調査において、「授業が分かりやすく楽しい」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ②年度末の校内調査において、「先生は授業内容・方法を工夫している」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- ③年度末の校内調査において、「授業でわからないところについて先生に質問しやすい」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ④年度末の校内調査において、「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。
- ⑤年度末の校内調査において、「図書室や学級図書を利用している」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。
- ⑥年度末の校内調査において、「自分の頑張ったところを認めてくれる先生が多い」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。

	目標	7月	12月	達成状況
「授業が分かりやすく楽しい」に肯定的に回答する生徒の割合	80%	97.9%	100	A
「先生は授業内容・方法を工夫している」に肯定的に回答する生徒の割合	90%	100%	100	A
「授業でわからないところについて先生に質問しやすい」に肯定的に回答する生徒の割合	80%	85.7%	100	A
「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある」に肯定的に回答する生徒の割合	85%	<b>93.8%</b>	95.5	A
「図書室や学級図書を利用している」に肯定的に回答する生徒の割合	70%	<b>81.7%</b>	75.0	B
「自分の頑張ったところを認めてくれる先生が多い」に肯定的に回答する生徒の割合	85%	<b>98.0%</b>	97.8	A
「手洗い・手指消毒をしっかりとし、健康に気をつけている」に肯定的に回答する生徒の割合	90%	<b>100%</b>	95.5	A
		市平均	本校平均	達成状況
体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点を大阪市平均より上回る	男子	40.79	33.50	C
	女子	46.99	40.67	C
	目標	結果		
1年漢字検定の合格率	50%	40%		B
2年漢字検定の合格率	50%	18%		C
3年漢字検定の合格率	50%	100%		A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>デジタル学習教材を活用するなど、自学自習を中心とした自主的な学習活動の支援や学習機会を提供する。</p>	

## 指標

- ・年度末の校内調査において、「自分の頑張ったところを認めてくれる先生が多いの項目について、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、「授業でわからないところについて先生に質問しやすい」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

### 【国語科】

達成状況 A ② C

漢字検定においては当初目的の数値を果たすことはできなかったものの、それぞれが漢字に対して前向きに学習に取り組むきっかけになり、言語能力の向上はした。ICT 機器に関してはいろいろな形で活用し、思考や表現のためのツールとして活用しており、主体的に学びに取り組む姿勢のきっかけづくりを行っている。

次年度に向けての取り組み

引き続き小さな学びのステップを作り、振り返り等で知識の定着などを図りたい。

### 【社会科】

達成状況 A ② C

画像や動画などの資料を ICT 機器で掲示し、生徒の興味を引き付けるように工夫している。単元ごとに『まとめ』を記入させ、学びの振り返りを行いつつ、テスト前はテスト範囲の振り返りを行い、学力の定着を図っている。

次年度に向けての取り組み

引き続き今年度同様の授業形態を継続し、学力の定着を図りたい。

### 【数学科】

達成状況 ① B C

毎時間「デジタル教科書」と「学習クラブ」を活用して授業を進めた。

次年度に向けての取り組み

ICT 機器を活用すると同時に、話し合い活動も充実させていきたい。

### 【理 科】

達成状況 A ② C

動画教材やデジタル教科書を ICT 機器を利用して提示し、生徒の関心を高めながら授業を行った。また、自主学習や夏休みの自由研究を評価し、生徒が主体的に学習に取り組めるようにした。

次年度に向けての取り組み

今年度の取り組みを継続し、自主学習や自由研究に取り組む生徒の割合を高める。

### 【英語科】

達成状況 A ② C

ほぼ毎時間デジタル教科書を利用して授業を行った。

単元の予習や復習として、デジタル教材を使用し、学習内容の定着を図った。



次年度に向けての取り組み

プレゼンテーションやグループワークの機会をこれまで以上に充実させる。

【英語科】

達成状況

A      ②      C

ICTを利用して、各学年で英語能力に合わせたプレゼンテーションを行った。

各学年の進度に応じて、グループワークを適切に行った。

次年度に向けての取り組み

次年度も今年度の取り組みを継続していきたい。

【音楽科】

達成状況

A      ②      C

少人数の中でも音楽を共有し、楽しむことができている。鑑賞の授業などにおいては生徒自身の感想を共有している。文化祭ではエンターテインメントとして発表することができた。

次年度に向けての取り組み

ICTの活用を充実させる

【美術科】

達成状況

①      B      C

自分の作りたいもの、表現したいものを自由に表現するための基礎技法や基礎技術をしっかりと身につけさせることができた。また、モダンテクニックを使ったイメージ表現では、アイデアを練る過程で、グループワークを取り入れ、より多様なイメージを広げ、製作に反映させる授業をおこなった。

次年度に向けての取り組み

各学年、鑑賞活動でのグループワークにも取り組んで、生徒の主体的な学びを推進していく。

【保健体育科】

達成状況

A      ②      C

陸上競技・サッカー・柔道の授業では、特にグループで練習を実施し、互いにアドバイスをする機会を多く設けた。

次年度に向けての取り組み

種目によっては、グループワーク時にそれぞれのアドバイスの質を上げることを狙いとして、映像を使えるようにしていく。

【技術科】

達成状況

A      ②      C

各学年で進度に応じたグループディスカッションを行った。また、実習授業でも計画・制作・振り返りを通して自主的に考える授業を行った。



**取組内容⑤【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】**

英語検定や漢字検定などの各種検定試験に取り組む。

**指標**

- ・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を前年度より5ポイント向上させる。
- ・漢字検定の合格率を50%以上にする。

**【国語科】**

達成状況

A B ③

数字について達成することができなかった。様々な対策は行ったが、もう少し長めに時間がとれていればと達成できていた。しかし、合格に近い生徒は多数いたこともあり、漢字の学習へ前向きな姿勢になったのではないかと、という望みは持てる。

次年度に向けての取り組み

漢字に関しては毎日の小テストでも学習しているが、これを継続して行うが、取り組み方については少し変えていく必要がある

**【英語科】**

達成状況

① B C

CEFR A1レベル以上の生徒は前年度比+45%という結果であった。英検を全学年に受験させることにより、英語検定に興味を示すようになった結果である。

次年度に向けての取り組み

次年度も引き続きレベルアップを目指して、検定対策を行う。

**年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析**

おおむね、目標は達成できた。特に、大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合で、昨年との比較し、5ポイント向上させることを目標としてきたが、昨年との比較で45ポイント向上させることができた。また、「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上としたが、82.3%の結果を残すことができた。一方で、男女とも、体力合計点が、大阪市平均より大きく下回る結果となった。漢字検定では、合格率が50%を下回った。各級で、200点満点で、140点以上が合格であるが、1年生・2年生はともに、4名ずつ130点台があり、あと一步届かない結果となった。この4人ずつが140点をこえれば、目標を達成できた。

**次年度への改善点**

引き続き、学力向上に努め、いろいろな取り組みを継続していく。

## 大阪市立築港中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況															
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>全市共通目標(中学校)</b></p> <p>①デジタル教材を活用した朝学習を週1回実施する。 ②ゆとりの日を週に1回設定・実施する。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>①授業日において学習者用端末を毎日使用する。(ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日を除く。) ②教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を、基準1では50%以上、基準2では75%以上にする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>7月</th> <th>12月</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合</td> <td>50%</td> <td>71.43</td> <td>71.43</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合</td> <td>75%</td> <td>100</td> <td>92.86</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table>		目標	7月	12月	達成状況	教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合	50%	71.43	71.43	A	教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合	75%	100	92.86	A	
	目標	7月	12月	達成状況												
教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合	50%	71.43	71.43	A												
教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合	75%	100	92.86	A												
<p><b>【1年】</b></p> <p>達成状況 <span style="margin-left: 100px;">(A)</span> <span style="margin-left: 50px;">B</span> <span style="margin-left: 50px;">C</span></p> <p>週3回、クロームブックを活用して朝学習を実施した。 残業をしないように学年の教員に呼びかけた。</p> <p>次年度に向けての取り組み 今年度と同じく、朝学習にてその週に取り組む教科を決め、デジタルドリルに取り組みさせる。</p>																
<p><b>【2年】</b></p> <p>達成状況 <span style="margin-left: 100px;">A</span> <span style="margin-left: 50px;">(B)</span> <span style="margin-left: 50px;">C</span></p> <p>朝学習の時間帯に読書を行い、生徒アンケートで「図書館や学級図書を利用している」と回答した割合は100%であった。</p> <p>次年度に向けての取り組み クロームブックの使用と活用について考える必要がある。</p>																

<p>【 3年 】</p> <p>達成状況 <span style="margin-left: 150px;">(A)</span> <span style="margin-left: 50px;">B</span> <span style="margin-left: 50px;">C</span></p> <p>各教科でデジタル教材の活用が行われた。文化祭で修学旅行の思い出をICT機器を活用して作成したものを展示した。定期テスト前は重点的にデジタル教材を活用してきた。</p> <p>ゆとりの日に勤務時間後すぐに退勤することに努めた。</p> <p>次年度に向けての取り組み 卒業後も、それぞれの進路先での生活を見守ってあげたい。 次年度の新中一学年でも有効的にデジタル教材を活用できる場を模索しながら利用していきたい。</p>	
---	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b> <b>【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</b></p> <p>全ての教員ができる限り多くの時間でICT機器を活用する。また、ICT機器を活用した研究授業を年間で一人1回以上実施し、教員一人ひとりの授業力の向上を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の校内調査において、「授業が分かりやすく楽しい」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。</li> <li>・年度末の校内調査において、「先生は授業内容・方法を工夫している」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。</li> </ul> <p><b>【ICT委員会】</b></p> <p>達成状況 <span style="margin-left: 150px;">A</span> <span style="margin-left: 50px;">(B)</span> <span style="margin-left: 50px;">C</span></p> <p>全教員が、授業や授業以外の活動でもICT機器を積極的に使用した。</p> <p>ICT機器の使用により、授業力の向上が図れたと感じている。</p> <p>次年度に向けての取り組み 更なるICT機器の充実と、わかりやすい管理、ICT機器に関する相互フォローができるよう、工夫をしていきたい。</p>	
<p><b>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b></p> <p>ゆとりの日を行事予定表に設定する。教職員の働き方改革を進め、時間外勤務時間の削減に努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆとりの日を週に1回設定・実施する。</li> <li>・教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を、基準1では50%以上、基準2では75%以上にする。</li> </ul>	

<p><b>【安全衛生委員会】</b></p> <p>達成状況 (A) B C</p> <p>基準1を満たす教職員の割合・基準2を満たす教職員の割合は、昨年度と比べて、さらに増加した。</p> <p>次年度に向けての取り組み</p> <p>引き続き、教職員の働き方改革を進め、時間外勤務時間の削減に努める。</p>	
<p><b>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】</b></p> <p>各学年で読書活動を計画的に推進し、週5回以上図書館を開館することによって、読書習慣の育成を図る。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の校内調査において、「図書室や学級図書を利用している」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。</li> </ul> <p><b>【教務部】</b></p> <p>達成状況 (A) B C</p> <p>図書委員と学校司書の運営によって、毎週昼休み、水曜日は9時30分～16時30分まで図書室を開館しているの、週5日の開館は実現できている。新刊導入時や、雨天時の図書室の利用は多いが、日々の利用人数は依然として少ないのが現実である。また、11月22日に読み聞かせを実施することができた。多くの生徒のみならず、教員の参加も相まって、好評を得ることができた。生徒アンケートの『図書室や学級図書を利用している』の項目では、75%の生徒が肯定的な回答をした。</p> <p>次年度に向けての取り組み</p> <p>読書週間や図書委員の活動を通して、図書室の利用人数を増やせるようにしたい。</p>	
<p><b>取組内容④【基本的な方向8 生涯学習の支援】</b></p> <p>大阪の歴史や文化、産業について、実際に施設や史跡、企業を訪れることで、「郷土おおさか」を愛する心を育てる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークや調べ学習を行い、まとめた事を発表することによって、能動的な学習態度を養う。</li> </ul> <p><b>【 1年 】</b></p> <p>達成状況 (A) B C</p> <p>11月の校外学習（海遊館）で我が町が誇る海遊館について学んだ。</p> <p>次年度に向けての取り組み</p> <p>1月にエイジレスセンター、2月にあべのタスカル、3月にサンタマリア乗船、と地域の魅力を存分に楽しむための校外学習を実施する予定である。</p>	

【 2年 】

達成状況

A      ②      C

3学期に築港フィールドワークを通して、地域の歴史と平和学習を行う予定である。

次年度に向けての取り組み

築港フィールドワークを通し、次年度の平和学習へとつなげていきたい。

【 3年 】

達成状況

①      B      C

体育大会や文化祭で学年の枠をなくした取り組みをする際に、3年生が中心となって対話と試行錯誤をしながら行事の内容を考えた。考えた内容を各行事で発表することができた。3年生としての役割を果たすことができた。

次年度に向けての取り組み

卒業後も、それぞれの進路先での生活を見守ってあげたい。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

おおむね、目標は達成できた。働き方改革の世の中にあって、本校のゆとりの日の設定・実施は、順調である。昨年度より、時間外勤務もさらに、減少傾向となっている。また、学習者用端末を毎日使用し、デジタル教材を活用することも継続できている。すべての教員にICT機器活用の研究授業を実施させることにより、ICT機器活用しわかりやすく楽しい授業を習慣化している教員がふえてきた。一方で、「図書室や学級図書を利用している」については、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする目標値としたが、年度末に75%の結果をのこすことができた。昨年度は、「大阪探検」、今年度は、本校地元の「海遊館のバックヤード見学」を実施することができた。2,3年生で「あなご食育授業」1,2年生で「エイジレスセンター」・「あべのタスカル」の見学、2年生の「築港フィールドワーク」、1年生の「サンタマリア号」乗船などさまざまな体験を計画し実施できた。

次年度への改善点

次年度以降も、「郷土おおさか」を知り、見学・体験をしていくとともに、郷土を愛する心の育成に努めていく。

